

## ⑬ いじめのない学校を目指して

令和6年4月改訂

教師用指導資料（小学校用）

# いじめのない学校を目指して

上尾市教育委員会

いじめにより児童生徒自らがその命を絶つという痛ましい事故が相次いで発生しています。いじめは決して許されないことであり、また、どの学校でも、どの子供にも起こり得るものです。この教師用指導資料は、学校がいじめの兆候をいち早く把握して、迅速かつ組織的に対応し、いじめのない学校を実現するために作成しました。

**いじめの定義**（いじめ防止対策推進法 平成25年法律第71号）

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

### いじめの「7つの特徴」は

- 1 いじめの初期は、言葉の暴力から始まる**  
・きもい・うざい・死ね・むかつく・ださい・ばい菌・くさい・ガイジなど
- 2 いじめとふざけの境界線がわかりにくく事実が見えにくい**  
・プロレスごっこやふざけっこなどの遊びなどから、罪悪感がなく発展する
- 3 集団化してくる**  
・いじめられることを恐れ、いじめる側が集団化してくる
- 4 長期化すると陰湿化・悪質化する**  
・いじめに気付かないと、執拗に、巧妙に長期にわたっていじめを続ける
- 5 場面が変われば立場も変化する**  
・小学校ではいじめる側だったのに、中学校では自分がいじめられる
- 6 犯罪行為や不登校、自殺にまで追い込んでしまうことがある**  
・暴行、恐喝、傷害等の加害や、被害者を不登校、自殺にまで追い込んでしまう
- 7 教師の言動や姿勢がいじめを誘発することがある**  
・教師の不用意な発言や児童生徒への接し方が、児童生徒をいじめの対象にしてしまう

## いじめに気付くためには

### ○ いじめはあるものと思う

いじめはないと思いでしまうと、見えるものも見えなくなる。教職員 一人一人が「いじめがあるかもしれない」との認識に立って組織的・継続的に観察を続け、生徒に「いじめは絶対許さない」ことを常に発信する。

### ○ いじめは教師の目の届かないところで多く行われる

いじめは、登下校時・休み時間・昼休み・清掃時・放課後・部活動時など教師の目が届きにくいところで多く行われる。児童生徒一人一人に十分な「目配り・気配り・心配り」に努め、教師間の情報交換を密にする。

### ○ いじめに気付かない・注意しない教師の前では、だんだんエスカレートする

教師がいじめに気付かないと、いじめをさらに進めてしまうことになる。また、いじめを注意しない教師は、児童生徒から信頼されず、相談されることもなくなる。誠意をもった態度が相談しやすい「先生」になる。

### ○ 保護者との連携及び信頼関係の醸成

些細なことでも、学校での児童生徒の変化を保護者へ連絡するとともに、家庭の様子を聞くなど、迅速で誠意ある対応が、保護者との信頼関係を醸成する。保護者との信頼関係は、いじめを早期に発見し解決する上で極めて大切である。

### ○ 携帯電話やインターネットの利用実態を把握するための調査を行う

ネットいじめは、時間と場所を選ばず、いつでも行われる危険性がある。児童生徒の携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用実態等を把握し、情報モラル教育等により具体的な事例を挙げ、予防に努めることが大切である。

クラスで取り組む「いじめをなくす3つの誓い」

「私はいじめを絶対しません」

「私はいじめを許しません。いじめられている人を助けます」

「わたしは一人で悩まず、先生や親に相談します」

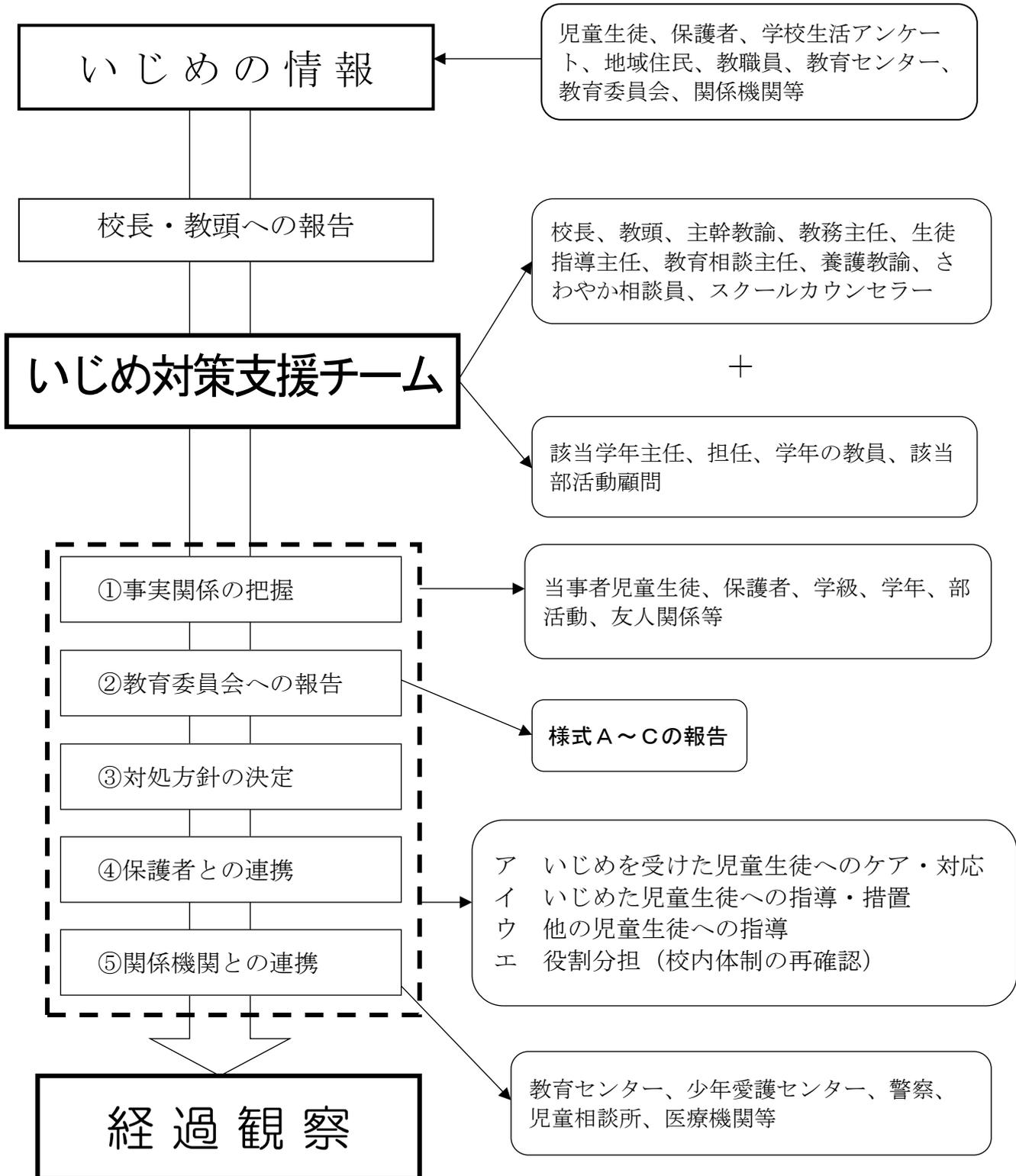
## いじめのサインを見逃さない ～場面ごとの具体的な着眼点とは～

◎ 以下の項目に当てはまる場合は、直ちに児童生徒に声をかける。

- 【登校】
  - 登校時刻が遅れがちである。
  - 表情が暗く、あいさつの声が小さい。
  - 服装が汚れたり破れたりしている。
- 【健康観察】
  - 遅刻や欠席が続いている。
  - 腹痛や頭痛が続いている。
  - 話しかけても目を合わせようとしない。
- 【授業中】
  - おどおどした様子が見られる。
  - 発表を笑われたり、からかわれたりしている。
  - 班やグループを作る時に孤立している。
  - 提出物や学習用具を続けて忘れる。
  - 机が離されていたり、配布物がとばされたりしている。
  - 教科書やノートに落書きが多く見られる。
- 【休み時間】
  - 遊んでいるときにも笑顔が少なく、表情が暗い。
  - 周りから、ちょっかいを出されている。
  - 職員室や保健室に出入りすることが多い。
  - 人目の付かない場所に行くことが多い。
- 【給食・清掃】
  - 給食配膳時に避けられる様子が見られる。
  - 給食の食べ残しが多い。
  - 周囲の友だちと会話が弾まない。
  - 準備や片付けなど、仕事を押しつけられている。
  - 清掃時に机を運んでもらえない。
- 【下校】
  - 下校時刻になっても学校に残ろうとする。
  - 一人で帰ることが多い。
- 【その他】
  - 作品や掲示物、机等に落書きや破損が見られる。
  - 持ち物等が隠されたり、なくなったりすることがある。
  - 欠席の日にプリント類を届ける友だちが少ない。
  - 日記等に、嫌だったことなどをよく書いてくる。
  - 急激な成績や学習意欲の低下が見られる。

# いじめが生じた際は

- \*いじめの訴えや情報、その兆候等は、どんな些細なものでも真剣に受け止める。
- \*特定の教職員が抱え込むことなく、学校全体で組織的に対応する。
- \*家庭や関係機関との連携を密にし、学校のみで解決することに固執しない。
- \*いじめを継続させないために、必要に応じて弾力的に対応する。



## 小学校の取組例

### 【取組例 1】 いじめ対策支援チームによる対処

5年生男子数名が、運動会を機に学級内の気弱な児童に対して、からかいや挑発をして興奮させ面白がる傾向が見られた。担任は、しばらく様子を見ることにしたが、からかいはやまず、数日後、いじめられている児童の保護者から相談を受けた。

- 1 担任は学年主任とともに、保護者から話を聞き、いじめをなくすために指導することを約束した。
- 2 担任と学年主任は、教頭、主幹教諭に報告し、今後の対処の指示を受けた。
- 3 校長は、教頭から報告を受けるとともに、「いじめ対策支援チーム」を開催して対処に関する役割分担を決めるよう指示した。
- 4 「いじめ対策支援チーム」で、それぞれの役割分担を次のように決めた。
  - A 担任と児童の元担任が、いじめを受けた児童と保護者から状況を聞く。
  - I 学年の教員が、学年主任や主幹教諭、生徒指導主任等とチームを作って、いじめに関わった児童一人一人から事情を聞く。
  - U 担任が、いじめられている児童に近い友だちから状況を聞く。
- 5 「いじめ対策支援チーム」で、事実関係の報告を聞き、指導の方針を決定した。
  - A いじめに関わった児童といじめられた児童に対して、複数の教員で個別に指導する。
  - I 担任と学年主任等のチームで、いじめを受けた児童の保護者の思いをよく聞くとともに、学校の方針を伝え、保護者の協力を得るようにする。
- 6 学級通信や保護者会を通して、保護者にもいじめの問題を自分のこととして捉えてもらった。
- 7 学年の教員を中心に経過を観察した。

### 【取組例 2】 いじめのない学校を目指して

**いじめのない学校を目指して、学校・学年で組織的に計画的に取り組んでいる。**

- 1 学習規律や生活規律の定着を目指して、規律ある態度の育成に全校で計画的に取り組んでいる。
- 2 学級を超えて少人数指導を実施し、一人一人のよさを伸ばす学習形態を工夫している。学年の教師が全児童を指導する体制の確立に努めている。
- 3 学校・学年行事で児童の自主的活動の場を設けて、学級・学校生活を充実させる。また、清掃活動などボランティア活動に取り組んでいる。
- 4 学校生活の中で、互いに助け合ったり協力し合ったりする活動を全校で推進している。（休んだ友達への手紙、縦割り集団の活動、誕生日の色紙など）
- 5 学級遊びなどを通して、教師と児童、児童同士の人間関係づくりに努めるとともに、日頃の児童の気になることを把握して指導記録カードに記録し、指導に生かしている。
- 6 遊びの中で横行していた一部の児童の自分勝手な行動によって起こるトラブルを、その都度自分たちで解決させている。
- 7 教育相談週間を設け、学級担任が個別面談を通していじめやいじめの兆候について情報収集や実態把握をしている。
- 8 いじめが生じた際は、「いじめ対策支援チーム」で対応や指導方法について話し合い、迅速に対応している。
- 9 保護者の授業参観日を多く設定するなど、保護者が来校する機会を多くしている。





		のなさについて多様な視点から考えている。(ミニボード・話し合い・発言)
	3 ねらいとする道徳的価値に照らして自己を振り返る。	
三角ロジック		
展開後段 10分	<p>○話し合った「生命を大切にする」方法について、あなたはどうか考えましたか。これまでのことを思い出しながらかいてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～という考え方に納得した。なぜなら…。</li> <li>・～という方法には無理があると思う。経験上…。</li> <li>・～という考えは一部反対だ。なぜかというところ…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの言動が相互の関係をつくり、かけがえのない生命をより一層輝かせるものであることを自覚し、生命を尊重しようとする大切さについて、ワークシートに書くことで考えさせる。ワークシートをタブレットにアップして共有する。</li> <li>☆多様な考えを参考に、軽はずみな言動が、ときに他者の生命をおびやかすことについて書いたり、かけがえのない生命を尊重しようとする大切さについて、これまでの自分を振り返っている。(ワークシート)</li> </ul>
ICT		
改善す		
終末 1分	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関係性をつくるはずの言葉や態度が、ときとしていじめにつながることを示すとともに、言動を大切にすることが、互いの生命を輝かせることを話す。</li> </ul>

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考える様子】

- ・「楽しむ」ことと、たがいの「生命を大切にする」ことを両立させることについて話し合い、生命のかけがえのなさについて多様な視点から考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・軽はずみな言動が、ときに他者の生命をおびやかすことやかけがえのない生命を尊重しようとする大切さについて、これまでの自分を振り返っている。

## 7 板書計画

<p>一、「この世から去れ」という共通の話題で盛り上がるのが楽しいのはなぜだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会話が弾む。</li> <li>・おしゃべりのため。</li> </ul> <p>二、小さな紙切れに、「この世から去れ」と自分のことが書かれていたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流行についていくため。</li> <li>・小さな紙切れに、「この世から去れ」と自分のことが書かれていたとき</li> <li>・悲しい。</li> <li>・信じられない。</li> <li>・いなくなってしまう。</li> </ul>	<p>今までの自分をふり返ろう</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td></tr> <tr><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td></tr> </table>	<input type="checkbox"/>	<p>○月○日(○)</p> <p>「わたしって何」 幸恵</p> <p>◎日々の生活の中で、たがいの「生命」を大切にするには、どうしたらよいだろう。</p> <p>三、「楽しむ」ことと、たがいの「生命を大切にする」ことを両立させるには。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の立場に立って考える。</li> <li>・話しやすい雰囲気の日頃からつくる。</li> </ul> <p>この世から去れ!</p>																																							
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																	

## 第6学年〇組 学級活動（2）指導案

1 題材 「いじめをなくすために」 内容（イ）よりよい人間関係の育成

### 2 児童の実態と題材設定の理由

（1）児童の実態

# 省 略

アンケート項目	結 果	
1 あなたはこれまでに、いじめられたことがありますか。	はい 〇〇人	いいえ 〇〇人
2 あなたは、どんなことを「いじめ」だと思えますか。	かげで悪口を言う      こそこそ話を言う 仲間はずれにする 暴力（ぶつ、蹴る、ひっかく） 物をとる、隠す、壊す 差別 <u>本人がいやだと思えば、その時点でいじめ<sub>1</sub></u> <u>いじめを見て見ぬふりをする<sub>1</sub></u>	
3 いじめは、なくなると思えますか。	はい 〇〇人 <理由> ・自分の周りでこれまでいじめを見たことがない ・人がやっていることは止められる ・いじめるのではなく、うまく関わるようにすればなくなる ・一人一人のことをしっかり分かってあげればいい ・毎月アンケートをやっているから、早く気付けるはず ・わざとやっているいじめはなくせる	いいえ〇〇人 <理由> ・一度なくなっても、また繰り返される ・先生のいない所や見えないところではなくならないと思う ・人間だから、0にはならない ・ <u>人間関係でうまくいかない時は絶対ある<sub>2</sub></u> ・ <u>いじめだと自覚しないで、いじめになってしまうことがある<sub>2</sub></u>

（令和〇年〇月〇〇日実施 〇名欠席）

アンケート結果から、アンケートを実施した児童のおよそ〇割の児童は、過去にいじめられた経験があることが分かった。それは低学年の頃の経験が多く、中には精神的に苦しんで病院に入院したことがある児童もいた。「いじめは、なくなると思いませんか」の問いに「いいえ」と答えた人数と、いじめられた経験がある児童の数がほぼ同数という結果は、いじめが起きやすいもので、簡単にはなくせないものだという児童の認識が表れているように感じられる。また、いじめの定義についての問いで、「本人がいやだと思えば、その時点でいじめ」「見て見ぬふりもいじめ」と答えたのは少数に留まったため、いじめの正しい認識は不十分だといえる。(下線部1) また、アンケートに加えて聞き取り調査を行ったところ、これまでにいじめ問題に関する授業を受けたことがないという児童が多かった。以上のことから、本学級の児童はいじめ問題を身近に感じている児童は少なく、いじめについて考えた経験も乏しいといえる。

## (2) 題材設定の理由

本校のいじめ防止基本方針によると、いじめは以下のように定義されている。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。  
(いじめ防止対策推進法第2条)

このようにいじめは基本的人権の精神のもと、国の法律によって防止しなければならないものとして定められている。〇〇〇小学校でも、いじめの早期発見、事案対処のために毎月のアンケート調査や聞き取り調査を行い、事実関係の把握といじめであるか否かの判断を行っている。昨年の休校明けから2学期末までの〇〇〇小学校のいじめ認知件数、及び態様は以下の通りである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
認知件数	〇件	〇件	〇件						

区 分	認知件数
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	〇件
仲間外れ、集団による無視をされる。	〇件
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	〇件
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	〇件
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	〇件

いじめを認知することは、いじめの芽を早期に発見し、迅速且つ適切に対処することに繋がっている。そのため、〇〇〇小学校では大きないじめに繋がっていない。いじめを防ぐためには、教師だけでなく、保護者や地域、児童自身の協力も必要である。児童がいじめに対する正しい知識を身に付け、いじめ問題を自分のこととして真剣に考えることは、児童自身がいじめ防止に動くことに繋がっていくと考える。また、これから中学校へ進学した時に、新しい友達とよりよい関係を築き、いじめのない学校生活を送ってほしいと願い、本題材を設定した。

## (2) 指導観

前提として、「いじめは人として絶対許されない行為であり、いじめで苦しんでいる児童を全力で守る」という強い意志をもって指導にあたる。しかし、いじめの問題行動を単純に否定するのでは、児童の心には響かない。児童もこれまでの経験の中で、必ず人間関係の問題は起



<p>学年・学級指導の時間に、「全国いじめ問題子供サミット」動画を見る。</p>	<p>○全国的にいじめ問題をなくすための取組があることを知り、学習への意欲をもたせる。</p>	<p>◎いじめ問題の改善に向けて、一人一人が考えて実践することの意義を理解している。 【よりよい生活を築くための知識・技能】 (感想用紙)</p>
--	---	---

## 6 本時のねらい

いじめ問題が起きないように解決策を考えて実践し、望ましい人間関係が築けるようにする。

## 7 展開

	児童の活動	○指導上の留意点	教材・資料	◎目指す児童の姿 【観点】 (評価方法)
<p>導入 4分</p>	<p>1 事前アンケート結果を知る。 2 ○○○小学校のいじめの実態を知る。 3 本時の課題を知る。</p>	<p>○「クラスの約○割は過去にいじめられた経験があること」、「○○○小でもいじめは起きていること」を知らせることで、自分たちの周りにもいじめが起きているのだということを捉えさせるようにする。 ○本時のめあてとゴールを示し、学習の方向性を示す。</p>	<p>アンケート結果 (大型モニタ)</p>	
<p>いじめを生まない友達との付き合い方を考えよう</p>				
<p>展開 30分</p>	<p>4 いじめの定義を確認し、どのようないじめがあるか出し合う。 &lt;身体的苦痛&gt; ・ぶたれたり、蹴られたりする。 ・いきなり叩かれる。 &lt;精神的苦痛&gt; ・悪口や陰口を言われる。 ・仲間外れにされる。 ・話しかけても無視される。 &lt;インターネット&gt; ・グループを外して悪口を言う。</p>	<p>○「仲間外れにする」「悪口やかげ口を言う」「ぶったり蹴ったりといった暴力」「持ち物を隠される」 のようないじめばかりではなく、「相手がいやだと思ったらその時点でいじめになる」「見て見ぬふりをすることもいじめ」といういじめの捉え方ができるようにする。</p>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手に本人の写真を流す。</li> </ul> <p>5 いじめが生まれやすくなる場面を話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょっとふざけてしまった時。</li> <li>・相手のことを考えずに。</li> <li>・みんながやっているからいいと思った。</li> <li>・イライラしていたから。</li> <li>・自分の仲のいい友達とグループをつくりたくて。</li> </ul> <p>6 いじめを生まないための、解決策を話し合おう。</p> <p>&lt;普段からできること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その子が嫌がることはしない。</li> <li>・乱暴な言葉は使わない。</li> <li>・小さなことでも「ありがとう」を言う。</li> <li>・友達がクラスの仕事等をしていたら手伝う。</li> <li>・勉強で困っていたら、教える。</li> </ul> <p>&lt;友達の言動にイラっとした時&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言っている言葉か考える。</li> <li>・少し距離を置いて冷静になる。</li> <li>・「だめだよ。」と正しいことを言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのような気持ちの時にいじめを生む行動をしてしまうのか考えさせるようにする。</li> <li>○考えが浮かばない児童へは、本時までに見てきたいじめに関する動画を思い出させ、何が原因だったか考えさせるようにする。</li> <li>○「いじめるつもりはなくて、ふざけていただけだった」といういじめの原因もあることに注目し、友達との付き合い方に問題があると、いじめが生まれてしまうことに気付かせるようにする。</li> </ul> <p>○いじめを生まない友達関係を築くためには、どのようなことに気を付け、直していったらいいかを考えさせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○最初は一人で考えた後に、友達とグループで話し合い、最後に全体で考えを共有する。その際に、似ている考えや違う考え等、分類して整理できるようにする。</li> <li>○「友達に優しくする」というような抽象的な解決策ではなく、「友達が一人でいたら、どうしたのと声を掛ける」等具体的に書けるよう声掛けをする。</li> </ul>	<p>ワークシート付箋</p> <p>ホワイトボード</p>	
--	---	--------------------------------	--

終末6分	7 よりよい友達関係を築いていくために、自分が取り組むことを決める。	○友達から出された考えも含めて、より自分に必要な取組を判断して意思決定するように助言する。	ワークシート	◎多様な意見を基に、いじめを生まない解決方法を自ら意思決定している。 【思・判・表】 (ワークシート、発言)
	8 本時の学習を振り返り、今後の活動を知る。	○月初めの学校生活アンケートで振り返りを記入することを伝える。 ○いじめは児童だけでなく、保護者や教師も協力してなくしていくという姿勢を示す。		

## 8 事後の指導

児童の活動	○指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】 (評価方法)
○月の学校生活アンケートの裏面に、自分が決めた取組ができていのかどうか振り返りを記入する。 (○月○日 ○曜日)	○○月○日の記入前にも、自分で決めた取組を実践している児童を見つけて積極的にほめる。 ○できているか、できていないかだけではなく、実践した場面を具体的に書けるよう声掛けをする。	◎自分で決めためあてに向けて粘り強く取り組み、よりよい人間関係を形成しようとしている。 【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】 (学校生活アンケート)

## 9 板書計画

<p><b>いじめをなくすために</b></p> <p>いじめを生まない友達との付き合い方を考えよう</p> <p><b>いじめの定義</b></p> <p>探 → どんな時にいじめが生まれやすくなるのだろうか</p>	<p><b>大型モニタ</b></p> <p>つかむ →</p> <p>アンケート結果 本時の学習の流れ</p>	<p>見つける → いじめを生まないために、友達とどう付き合っていくか解決策を考えよう</p> <p>決める → これから自分が取り組むことを決めよう</p>
---	--	---

## 10 ICT活用計画

- 導入・・・アンケート結果、本時の学習の流れ
- 展開・・・他のグループの話合いの様子
- 終末・・・クラスの集合写真

## 上尾市「いじめ根絶」小学生サミット

あげおし

こんぜつ

ちか

# 上尾市「いじめ根絶」小学生の誓い

わたし  
私たちは、いじめをなくし、みんながなかよく楽しい学校をつくり  
ます。あげおし ぜんしょうがっこう ぜんじどう  
上尾市の全小学校・全児童は、ここに「いじめ根絶」の学校をつ  
くることを誓います。

## あいて きも おも 相手の気持ちを思いやります

いじめられているかどうかは、あいて き  
相手が決めることです。あいて かんが  
相手のことを考え、  
おも  
思いやりの心をもって、みんなにやさしく、みんなとなかよくします。

## と ゆうき いじめを止める勇気もちます

いじめでこま  
困っていたり、なや  
悩んでいたたりする人をすす たす  
進んで助けます。いっぽふ  
一歩踏み  
出すゆうき  
勇気をもって、なかま たす  
仲間と助け合い、こえ  
声をかけ合っ  
ていじめを止めます。

## こま まわ そうだん 困ったら周りの人に相談します

いじめはひとり  
一人だけではかいけつ  
解決できません。困ったら、ともだち せんせい かせく  
友達や先生、家族など  
まわ  
周りの人に話します。いじめをぜったい  
絶対にゆる  
許さないふんいき  
雰囲気をつくり  
ます。

平成29年8月25日